

最上の子どもたちのために

未来へ紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和7年 3月 4日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第 10 号

最上地区生徒指導連絡協議会主催
令和7年2月3日

生徒会サミット

令和6年度第2回最上地区中学校生徒会サミットがオンライン（Zoom）で開催されました。今年度の生徒会サミットのテーマは、「絆を深め、誰もが行きたくなる楽しい学校づくり」についてです。各校で取り組んでいる活動や活動の計画にあたり悩んでいることなどについて活発に意見交流が行われました。参加した生徒のみなさんからは、他校で同じ立場で活動している仲間がいることを励みにして、新生徒会として、生徒自らによる自治的な組織づくり、主体的な学校づくりを今後一層充実させていきたいという思いを感じ取ることができました。



○各学校の取組紹介(一部)

- ・新庄中…マッチング交流会、みんなの教室
- ・日新中…チームアップ政策
- ・萩野学園…クラス対抗クイズ大会
- ・大蔵中…大中X（エックス）
- ・舟形中…あなたの好きなものは？
- ・鮭川中…縦割り合唱

※詳細については、参加された各学校生徒会役員等へお聞きください。

講評 舟形中学校 梅津保裕 校長先生より



3年生からバトンを受けた1・2年生の新生徒会で計画している各校の工夫した取組みは、他校の取組みに新たな視点を与えてくれるものになったと思います。また、どんな取組みをしたらいいのか、やっていることの方角性はそれでいいのかなど、リーダーとして悩んでいることは、同じ立場だからこそ共感できる部分があったのではないのでしょうか。生徒会のリーダーとして自分たちが掲げた目標を達成するために意欲的に活動してほしいと思います。



☆コーヒープレイク☆ テーマ：いのちの大切さを実感すること

先日、管内の学校の「いのちを深く考える日」の授業を参観させていただきました。どの授業でも先生方から、いのちについて考えるきっかけを与えて下さっているように感じました。

道徳の授業では、自分につながるいのちのバトンを考えたり、理科の授業では食糧問題を考えたり、外国語の授業では、ノーベル平和賞に輝いたマラウさんの生き方から考えたり……。さらには、体育では心肺蘇生法を体験したり、国語の授業では15歳の自分の生き方を考えたりと内容は多岐にわたっていました。

参観をしながら、私自身も自分や周りのいのちについて改めて考えさせられました。そして、当たり前のように過ぎていく毎日が、実は奇跡の積み重ねなのだということを確認しました。子どもたちが、「いのちを深く考える日」をきっかけに、家族や友人とのつながりをより大切に、思いやりのある社会をつくっていかれることを願っています。

自宅に帰った夜のこと。会ったことの無い祖父の顔が浮かびました。小さい時によく言われた「おめえは、最上川から流れてきたんだ～」という親の冗談とともに。

新時代の英語教育実践リーダー研修 令和7年1月28日

新庄市立日新中学校 佐藤 郁子 教諭

第2学年 英語「Stage Activity2 Research and Presentation」



日新中学校を会場に、佐藤郁子教諭による新時代の英語教育推進事業公開授業研究会が行われました。本単元では、「姉妹校の台湾の中学生に日新中学校の流行(トレンド)を知ってもらうために、クラスメートに調査を行い、その結果を図や表を用いてプレゼンテーションする」という言語活動が設定されました。この日の授業で中心となったのは、プレゼンテーションの際に自分たちの考えを伝えるのに有効な表現を、既習事項から探す(Hunt)活動です。グループごとに、教科書や学習プリントから見えそうな表現を探すとともに、プレゼンテーションの構成を意識してどの場面で使えるのかを話し合う姿が見られました。また、佐藤教諭が活動中の生徒たちの発言等を拾い、より適切な表現になるように、生徒とのやりとりをとおしてフィードバックを与えていく指導は、生徒が相手意識をもって思考を深めていくうえで非常に効果的でした。

事後研では、4名の小・中の実践リーダーのよる「既習事項を活用した学び方」をテーマに積み重ねてきた実践について活発な意見交流が行われました。さらに、講師にお招きした、東京家政大学副学長の太田洋先生から、授業への指導・助言をいただくとともに、「自分の気持ちを英語で伝える力を育む授業づくり」について講義していただきました。

参加者の感想 ～授業 及び 太田先生の講義より～

- 既習事項を生かすことで、ここまで自分の考えや気持ちを表現することができることを再確認できました。そのために生徒自ら Hunt したくなる言語活動の設定と「学び方」の指導を両輪で考えていかなければならないと感じました。
- 中間指導では、どのようなことを取り上げ、どのように全体で共有するのかというタイミングと明確なねらいが重要だと感じました。
- 「～の場面で見えそうな表現」を探すことで、単に語彙や表現の Hunt にとどまらず、「自分の考えを英語で表現するために Hunt する」という意識をもって指導にあたりたいです。



令和6年度

教科担任マイスター県内グループ研修 令和7年2月3日

戸沢村立戸沢学園 第4年生 算数 単元：「箱の形の特ちょうを調べよう」

教科担任マイスターの竹田典史先生は、日常的にT・Tで他学年の授業に入ったり、校内に向けて通信を発行したりしながら校内OJTの推進に取り組んでいます。今回は4年生の算数の授業を中等部数学科の渡辺麻美先生と鈴木雄大先生からも協力いただいて、一緒に授業づくりを行いました。

この日は、新規採用から3年目の高橋恒先生が授業を公開しました。「直方体と立方体」の単元の3時間目の授業で、「模型を使って様々な展開図を作ってみよう」という学習内容でした。辺の長さや面のつながりに着目し、展開図の構成要素の位置関係を捉えさせるために、フレームワークを使用したり、できた展開図を写真に撮り、全体共有する等工夫を重ねていました。高橋先生自身がICTの活用だけでは、児童の思考が深まらないことをこれまでの経験から実感しており、子どもたちが操作を通じて、分かったことや気が付いたことを大切にしながら授業を進めているところが印象的でした。

戸沢学園のように若手の先生が先輩の教員と一緒に授業づくりを行う実践は、校内のOJTの充実につながる取組です。



○授業づくりをした高橋先生の感想

教科担任マイスターの竹田先生と中等部の渡辺先生、鈴木先生と一緒に授業づくりをしたことで、一人では考えられないアイデアをいただくことができました。特に本時の展開図は方眼紙を使用する予定だったものを、フレームワークを使用したことで、子どもたちは何パターンも展開図を作ることができました。